

これからを拓く 小地域福祉活動 ヒントブック

このヒントブックは、今、**地区福祉委員会**などの地域活動に取り組んでいるなかで悩んだり立ち止まったりしたとき、**新たなチャレンジ**をしたいときに、考える**きっかけ**になることを願って作成しました。

これまで**積み重ねてきた今までの歩み**を大切にしながら、「どうすれば**仲間**が見つかるかな?」「どうすればもっと**楽しく**続けられるかな?」と考えたときに、ふと**ヒント**が見つかるような、そんな一冊として活用いただければ幸いです。

もくじ

地区福祉委員会・小地域ネットワーク活動とは	P.2
組織運営のヒント	P.2
財源の管理や確保のヒント	P.3
担い手が広がる・育つヒント	P.4
周知・広報のヒント	P.5
活動のすすめかたのヒント	P.6

『小地域福祉活動のこれからを拓く実践検討会』

令和8年3月

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会



地区福祉委員会・小地域ネットワーク活動とは



地区福祉委員会(校区福祉委員会・校区福祉会・地区社協)とは？

社協の内部組織として、おおむね小学校区ごとに組織され、自治会、民生委員・児童委員、ボランティアなどと協力して、福祉の視点から「自分たちの町をどう良くするか」を話しあい、活動する団体です

小地域ネットワーク活動とは？

地区福祉委員会が中心となり、関係機関や地域の諸団体などと互いに連携・協力し、ネットワークをつくり、福祉課題の早期発見・早期解決を目指します

福祉課題(一例)

- 社会的孤立・孤独
定年退職後のひとり暮らしの高齢者が家に閉じこもっている/近所に頼れる人がおらず、子育て中の親が孤立している/毎晩コンビニで夕食の買い物をする小学生 など

小地域ネットワーク活動の内容や機能、活動事例はこちらから⇒



早く気づく・見つける・専門職や各サービスにつなげる
・居場所(心の拠り所)になる

個別援助活動

- 見守り ● 声かけ訪問 ● 配食サービス など

グループ援助活動(一例)

- 子育てサロン ● いきいきサロン(喫茶)
- ふれあい昼食会 ● ボッチャ等のスポーツ交流
- 子ども食堂 ● 男性向け●●教室 など

組織運営のヒント



みんなで考え、安心して続けられる運営を

地区ごとの計画(アクションプラン・事業計画)を立ててみましょう

- 💡 地区福祉委員会が目指す目的や理念を大切にしながら、どのような活動を進めていくかを考えます
- 💡 時代や地域の状況に合わせて、活動や計画を定期的に見直していきましょう
- 💡 地域のみなさんが今どんなことに困っているのか、アンケートなどで声を聞くことも有効です

地域のさまざまな団体と一緒に考えてみましょう

- 💡 地区福祉委員会だけでなく、地域団体・ボランティア・社会福祉施設・企業などと一緒に話し合うことで、活動の選択肢が広がります

会則や運営ルールも、時代に合わせて見直しましょう

- 💡 新しいテーマや活動にチャレンジするために、会則やルールの見直しが必要になることもあります
- 💡 事務作業を簡素化するなど、運営を続けやすくする工夫も大切です

情報共有を工夫し、負担を減らしましょう

- 💡 会議内容や協議したことは、共有しましょう
- 💡 閲覧板だけでなく、LINEなどを活用するとより早く情報を共有できます
- 💡 デジタルツールやAIを活用することで、会計処理や書類作成などの事務負担を軽減することもできます



河内長野市 | 高向小学校区福祉委員会

まちづくり協議会と協働し、
全世帯向けに「世帯支援の必要性と
協力者」の調査を実施

生活支援、とくに移動支援が必要な方が多い。
また支援に協力してくれる方が
多くいることが判明

住民が主体となった
生活支援(移動支援)の仕組みが誕生!

地域への周知、会則などの整備、
協力者の運転講習を開催、補助金を確保

泉大津市 | とある地区福祉委員会

課題

どんなことも集まって会議・打ち合わせ! だけど、日程調整とか大変...

→ 会議の内容を精査して、集まらなくても決められること(イベントの役割分担など)や
情報共有は、LINEグループで決定・共有

結果

決めごとの度に集まる必要がなくなり、負担軽減に!

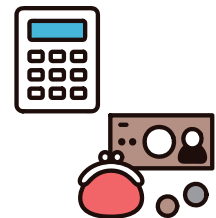


財源の管理や確保のヒント

お金の管理は、透明性を大切にしましょう

活動で使うお金は適切に管理し、必ず複数人で確認するようにしましょう

- 💡 活動の趣旨に基づいたお金の使い方をしましょう
- 💡 会計をきちんと行うことが、安心して活動を続けるための信頼につながります



新たな活動財源を考えましょう

新たな活動を考えたり、活動を見直したりするときは、寄付金や助成金を活用してみましょう

- 💡 活動テーマに応じて、いろんな団体が助成をしています。新たな福祉課題などは寄付金を募ってみるのもよいです。助成金などの情報は、社協にもあります
 - 💡 同じ地域の他団体と費用を按分してみましょう。同じ目的の活動や、活動のコラボだと費用を相談しやすいです
 - 💡 寄付金・助成金を活用したら、活動を報告したり、外部に見える化しましょう
- 阪南市では、大阪府の地域福祉活動への助成金を農福連携<農業 × 福祉>に活用!

交野市 | 校区福祉委員会の会計の標準化・透明化

活動の補助金の管理や会計処理の注意点などをガイドライン・マニュアル化し、会計研修で共有

- はじめて会計担当になった人でも、年間活動の流れや処理方法などがわかる
- 会計の透明性を高めることで、地域のみなさんからの信頼感が向上!

担い手が広がる・育っヒント



仲間・応援団を増やしましょう

今の活動の対象者から、参加者層をちょっとだけ広げてみませんか？

- 💡「ごちゃまぜ」「誰でも」はキーワードになります
- 💡今の活動を大きく変えなくても始められます

理解者・協力者を増やすことを意識してみましょう

- 💡短時間やちょっとした作業ならできる仲間がいるかもしれません
「サロンの受付だけなら手伝えますよ！」 こういった声も歓迎しましょう
- 💡学校や先生、施設など一緒に何かできるきっかけを待っているかもしれません
「子どもたちに広報誌の絵を描いてもらいたいなあ・・・」
「施設のスペースを借りれるかなあ・・・」 声をかけてみるのもいいですね



将来の地域の担い手の種まきになるかもしれません

コラム

富田林市 | ゆるスタッフで運営（虹いろサロンこんごう）

～ゆるスタッフ～ 月に1回から活動OKのボランティアが活躍。
LINEグループでシフト変更の調整も可能。時には利用者になる人も。
約30名が登録しています！



活動のようすを
動画で

活動者や役員は、いろんな世代、いろんな所属の人を意識しましょう

役員や特定の人に、役職や係・役割が偏らないようにしましょう

- 💡「任せすぎない・担いすぎない・分散する」の意識は大切です

地域には、いろんな特技や得意分野をもった人、専門職がいます
一緒に何かを始めてみると、新しい発見、つながりができるかもしれません

- 💡社会福祉施設や大学、商店街なども地域に貢献しています
地域の活動や住民の困りごとに関心のある施設や住民と何か一緒に取り組みたい!と思っている大学もあります
緩やかな顔合わせは始めやすいです! まずは社協に相談してみましょう
- 💡これまで関わってこなかった企業や業界とも関わりましょう
建築、IT、スポーツ、ファッション、デザイン、健康増進、金融関係、交通・・・など



コラム

吹田市 | こんな協力者もいいね!

各地域で、協力者の輪が広がっています!

- 福祉委員会と施設連絡会、学校が協力して福祉教育を実施
- 子育てサロンに保育園の先生が講師、園児は参加者として協力
- 中学校生徒会と福祉委員会が協力して地域交流を実施



SUITA_SYAKYO
活動のようすは
吹田市社協
Instagramで

周知・広報のヒント

地区福祉委員会のことを知ってもらいましょう

地区福祉委員会の活動を、地域の住民へ“分かりやすく”端的に伝えましょう

- 💡 地区福祉委員会の活動情報や実績は、誰でも見られるように公開しましょう
- 💡 自分たちの会の特徴・PRポイントは？ 一言でいえると伝わりやすいですね

地区福祉委員会の活動は、地域住民にとって、大事な機能を担っています 活動とあわせて機能も伝えられると、地区福祉委員会の価値がより高まるでしょう

例えば・・・

- 「予知・予防」 いきいきサロン～外出の機会を設けることで閉じこもり防止になります
- 「早期発見」 配食サービス～定期的な訪問が、見守り・安否確認につながります

広報物作成、情報発信のポイントって？

広報誌やSNSで参加募集をする際は【対象】を明確にしましょう

- 💡 年代は？ 性別は？ 属性は？
- 💡 対象に応じて、広報媒体を変えてみるといいかもしれません
- 💡 SNSって何？ → インターネット通信で交流するサービスです
具体的には…LINE、インスタグラム など

イラストやデザインを取り入れると見やすくなります

- 💡 子どもや学生、地域のボランティア、サロン参加者・・・
絵を描いてもらうのもひとつです。得意な人がいるかもしれません！
- 👉 広報物作成や発信の際は、肖像権や著作権、個人情報の記載に注意しましょう
- 👉 写真を撮る際は、掲載許可の声掛けをしましょう



地域で勉強会を開催したり、社協などの研修に参加して見識を広めましょう

コラム

豊中市 | インスタグラムで発信！（少路校区福祉委員会）

インスタグラムで、子育て世代に向けて「子育てサロン ほっとる一む・ひよこちゃん少路」の開催状況、子育てに役立つ行政や地域の情報を福祉委員と主任児童委員が協力して発信！
「少路校区福祉委員会」でも、主に高齢者向けの活動の様子を発信中。



@HIYOKOCHAN_SHOUJI
ほっとる一む・ひよこちゃん少路



KOKUKU294
少路校区福祉委員会

コラム

交野市 | “著作権” について学ぶ研修会を開催

社協職員や校区福祉委員、社会福祉施設の職員等を対象に合同での研修会を実施。
イラストや資料のデータ化や SNS など情報発信の方法が多様化するなか、安心安全な広報活動を行う著作物等の利用や権利、考え方について学びました。

活動のすすめかたのヒント



協議、話し合いを大切に

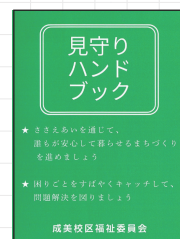
- 💡 「地域の課題は?」「こんな困りごとが増えている!」など、自分たちの地域のことは自分たちが一番よく知っています
まずは、みんなが思っていること、困っていることを持ち寄って共有しましょう
- 💡 先進事例を聞いたり視察に出向く、子どもたちや子育て世代の声を聞くなど、新しい視点や考え方、方法を学ぶことも、みんなで考えていくために大切なことです
- 💡 自治会やまちづくり協議会とも活動の重なりがあれば、整理して役割分担すると一緒に動ける仲間になります
- 💡 同じ課題やテーマで活動する団体、同地域で関連している団体はありますか? 話し合う場をもってもよいかもしれません

コラム

寝屋川市 | 見守りハンドブックづくり

「孤独死等の状況調査分析報告書」をもとに孤立・孤独に向き合う話し合いをしました。(メンバーは各校区福祉委員長、小地域ネットワーク活動の実務を担う方) 見守り活動を通じた孤独・孤立を防ぐ地域をつくるため、5つの取り組み(5大プロジェクト)と、その優先順位についても話し合って決めました。

まずは、見守りハンドブックを校区福祉委員会で作成することに。どんな人に手に取ってもらえるのかなど、地域にあった効果的な活用法を各校区福祉委員会で話し合いながら行っています。「居場所・役割づくり」や「たすけられ力向上」などの取り組みも進めています。



校区福祉委員会ごとにアレンジした
ハンドブック

コラム

阪南市 | 子ども福祉委員

「昼間の地域は、高齢者と子どもしかいないよね…」 「それなら子どもたちに、小地域福祉活動にかかわってもらえるようにしよう!」 という福祉委員の声から活動が開始。学校での広報・公募で集まった子どもたちと話し合い、どんなことに困っているのか、自分たちに何ができるのか話し合いながら活動しています。子どもたちが活動する時には、福祉委員もさりげなくサポートしています。



自分もみんなも無理なく楽しんで

- 💡 見守り活動やサロン活動などを通じて、困りごと(ニーズ)を発見して、専門機関による支援や地域での見守り(気かけあう関係づくり)につなげていく働きがとても大切です
- 💡 支えあったり気かけあう地域をつくっていくために、みなさんの取り組みを子どもたちにもわかりやすく発信してみませんか。たとえば漫画で、SNS(LINE、Instagramなど)で…。地域には得意な人がいるかも!
- 💡 自分たちの活動の意義や働きを理解して、無理なく楽しみながら活動しましょう

e スポーツ

コミュニケーションが苦手な人でも、eスポーツなら！大人も子どもも多世代での交流の場にあるといいかも。

eスポーツとは？

コンピューターゲーム
などを用いた対戦競技



わんわんパトロール

愛犬と散歩しながら、散歩仲間との交流のなかで、高齢者や子どもたちの見守りや防犯活動をする「ながら見守り」「ちょこっとボランティア」の活動も。



男の珈琲道場

プロから美味しいコーヒーの淹れ方を学ぶ…楽しく学んだことを地域や誰かのために活かす…

コーヒーを通して男性同士の輪が広がっています。



市町村社協（職員）と一緒に考えましょう

社協には、コミュニティワーカーやボランティアコーディネーターなど地域福祉の専門職がいます。日ごろから、市町村社協（職員）と対話し、連携しながらすすめてみましょう。活動や運営に困ったとき、どこかにつながりたいとき、活動を広げたいときは、市町村社協（職員）に相談し、一緒に考えましょう。

地域での福祉活動に関心をもつ人、かかわる人を増やしたい！

💡 社協ではさまざまな事業を実施しています

そうした事業もヒントにして、地域での福祉活動に興味・関心をもてる「入口」「機会」を広げていきましょう

SNS（LINEやInstagramなど）で発信してみたい！

💡 社協として上手に活用しているところもあります

やり方を教えてもらったり、投稿のルールを一緒に考えてもらったりしてみましょう



※CSW = コミュニティソーシャルワーカーの略。地域づくりと個別支援の専門職。

コラム

寝屋川市 | まちかど福祉相談所

「身近な場所で気軽に相談」「困りごと、ふくしに限らずお気軽に」をキャッチフレーズに、まちかど福祉相談員（地域住民）と地域担当の社協職員（CSW※）が定期的に開所。相談所では、住民からの暮らしの相談を受けたり、福祉委員とCSWが活動の相談をしたりします。スマホ相談会を併設した出張相談所など、地域でよく聞く相談内容に対応した取り組みも行っています。

相談者が安心して話せる雰囲気づくりを心がけています。
CSWに気軽に相談できるのも安心できます。



コラム

高石市 | 市内・地域が一丸となり全戸訪問

「孤立ゼロプロジェクト事業」として、校区福祉委員や民生委員、自治会、シニアクラブ、婦人団体、ボランティア団体などの地域支援者と、CSWなどの福祉専門職が、訪問サポーター（訪問調査協力員）となって、市内全世帯（全戸）を訪問。地域、福祉専門職、行政・社協が三者一体となり、暮らしの不安や困りごと、日常生活の状況などを把握し、支援が必要な方には適切な支援につなげます。

今まで福祉活動に参加したことのない方（サポーターの友人）も参加



行政や社協も関わっているので誘いやすかった

●まず、「地域」とは…。

そこに暮らす人びと(=住民)が共同的な営みとして、あるいは意図的な営為として形成している社会関係の総体であり、自然環境も含めた暮らしの条件のことをいいます。そこに人の暮らしがなければ「地域」ではありません。地域は、そこに暮らす住民がつくっているのです。

●私たちの暮らしと「地域」

とはいえ、私たちには地域に根ざして暮らしている状況と、地域を意識することもなく地域を超えて暮らしている状況とがあり、年齢(乳幼児・学齢期・成人期・高齢期)や出産・育児・就学・就職・病気・事故などのライフサイクル上の出来事によって、「地域」の範囲や生活圏域、地域がもつ意味は変わってくるのです。

●「地域」と「コミュニティ」

よく「地域コミュニティ」と表現されることがありますが、「職場のコミュニティ」、「ママ友・パパ友コミュニティ」、「ネットコミュニティ」というように、「地域」を意味しない場合もあります。コミュニティとは、「“私たち”と実感することのできる他者との関係」のことを意味します。「同じ地域に暮らす住民」として、「同じ事柄に関心のある市民」として、あるいは「同じ課題を抱える当事者」として、私たちはさまざまなコミュニティを形成し、そこに属しながら生活しているのです。

●「住民主体」・「住民自治」

私たちは、生活を自律的に営む主体者(=「生活主体」)ですが、福祉サービスを利用する際には、単なるサービス利用者というよりは、「利用者主体」あるいは「当事者主体」という側面が重視されます。また福祉委員やボランティアとして福祉活動を担っている場合には「住民主体」の原則が重視されます。このように私たちが、私たちの暮らしを、私たち自身でつくっていくということを重視する思想や考え方を「住民自治」といいます。

●コミュニティ・プラクティス

少子高齢化、人口減少、単身世帯の増加など、私たちはこれまでに経験したことのない社会の変化に直面しています。そして、経済的困窮と孤独・孤立が掛け合わせり、「複合多問題」といった地域生活課題が顕在化してきています。しかも、こうした課題は、一律に進行しているのではなく、解決のための資源も含めて、大きな地域差があります。だからこそ、その解決についても地域性を考慮する必要があります。住民の生活の舞台である「地域」において、住民が自治的に行政やさまざまな機関・団体と力を合わせて実践的に解決を図ることを「コミュニティ・プラクティス」といいます。

●Do it with others !!

コミュニティ・プラクティスで大切なことは、「まず Do から始める!!」「一緒にになにかやってみる!!」ということです。目標やゴールを定めることも大切ですが、もっと気楽に「楽しく」、「誰かと」、「始めること」、そしてそこで生じる「ケミストリー(化学反応)」を「楽しむ」ような発想で、取り組むことも大切です。

●ローカル・モモンズ(地域の共有財産)としての小地域福祉活動

今日の私事化された社会生活では、自己責任が強調されます。しかし、個々人や各世帯の努力では解決できないからこそ「問題」なのです。住民が主体的に取り組む小地域福祉活動は、住民が「きょうどう」(共同・協同・協働)して取り組む活動であり、「地域の共有財産」であるともいえます。だからこそ、大切に維持し、育てていく取り組みでもあるのです。

●「関心のあることを、できる範囲で、すこしだけ」の輪を広げる

これから地域においては、特定の人たちが、強い責任感のもとで活動を展開することには限界があります。ですので、活動内容を棚卸して整理し、住民同士で「シェア」しながら、「関心のあることを、できる範囲で、すこしだけ」関与してくれるような「住民の輪」を広げていくことが大切になります。

この小冊子が、そうしたこれからの小地域福祉活動の実践を拓いていくためのヒントになり、そうした活動を支える社会福祉協議会職員の「実践の指針」になれば幸いです。

小地域福祉活動のこれからを拓く実践検討会 松端克文(武庫川女子大学)